

## 目標達成計画

作成日: 平成 25 年 12 月 16 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		利用者様の認知症の進行により、ホームで以前行っていた「カラオケ大会」「習字」「塗り絵」「貼り絵」「身体を動かす運動」「計算問題」等のレクリエーションができなくなっている。	「全員で参加できるレクリエーション」、「個人個人に合わせて行うレクリエーション」を職員全員で話し合い実施する。又、何を行いたい自分たちで決定してもらう事で自己決定ができ、認知症進行の防止ができる。	以前行っていた、レクリエーションを見直し、利用者様・職員と一緒にいき、一緒の時間を過ごす事で今以上にコミュニケーションを図ることができる。又、それぞれの介護度に合わせて利用者様が楽しめるよう日々工夫しながら実施する。	12ヶ月
2		利用者様の身体的低下により、居室で休まれる時間が増えてきた。体力の低下により下肢筋力の低下も見られ、以前は自力で歩行できた方も自力での歩行が困難になってきている。	ホーム内の歩行運動を行ったり、上肢・下肢の運動を行うことで、下肢筋力の維持ができる。また、天気の良い日は、縁側や庭先に出て日光浴をしたり、庭先を散歩することで気分転換や皮膚疾患の軽減ができる。	毎日ホーム内の歩行運動を15～30分程行い、歩行状態を観察しながら、全員で運動を行う。天気の良い日は、縁側や庭先で日光浴を行ったり、庭を散歩したり、近所を散歩したりして徐々に外に出る回数を増やす。無理せず、その日の体調に合わせる。	12ヶ月
3		身体的に低下されたり、個々人の食事形態の変化により、以前まで全員で参加していた遠出の外出が減り、利用者様が楽しみにされていた外食の機会も減ってきた。	外出に参加することで、ホーム内で過ごす時間とは違った刺激を受けてもらい、本人の好みの食事を食べてもらう事で、普段とは違う雰囲気を楽しんでもらい、引きこもりがちな利用者様の外出へ対する意欲を持ってもらう。	季節に応じた景色・景観を見たり、利用者様の思い出の場所を訪れてもらう事で外出への意欲を持ってもらう。又利用者様にホームでは、なかなか提供できない食事を外食に行き、食べてもらう事で、食べる事の楽しみを持ってもらう。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。